

Program for the Development  
of Next-generation Leading Scientists  
with Global Insight (L-INSIGHT)

HeKKSaGOn・L-INSIGHT  
Spin-off Programme, 2022 [HLSP]

An Initiative among  
Kyoto University,  
Heidelberg University,  
Karlsruhe Institute of Technology and  
University of Göttingen

オンラインフォーラム(Zoom)

→ →

お申し込み

2022年12月2日[金]  
17:30-19:45 JST | 9:30-11:45 CET

締切  
2022年12月1日

URL  
<https://forms.gle/jXPu6cMfnx6mxqs26>



 飯間麻美  
「腫瘍イメージングにおける  
マクロスケールと  
ミクロスケールの  
橋渡し」

 岡村亮輔  
「消化器癌に対する  
バイオマーカーを用いた  
個別化  
外科治療」

 田中智大  
「2050年の  
水文学研究」

 江口佳那  
「高齢社会における  
ITリテラシー格差を  
医療技術は  
どう克服すべきか?」

 井上浩輔  
「2030年の  
医療科学における  
疫学・統計学の役割」

 磯部昌憲  
「人類はどうかの  
どうなるのか/どうあるべきか」

 白石晃将  
「植物-微生物相互作用に関する知見を  
どのように世界レベルでの政策対話に  
統合できるか/すべきか」

# Seven Dialogues for Future Research and Science with Early Career Researchers

本ワークショップでは、次世代の学術を担う研究者が、未来の研究課題のために、今こそ議論すべきだと考える超領域的な7つのテーマを取り上げます。

7つのテーマは京都大学の若手研究者コミュニティであるL-INSIGHTフェローが提案するもので、本年度は、ハイデルベルグ大学、カールスルーエ工科大学の3大学に加え、新たにゲッチンゲン大学の研究者が参集し、それぞれのテーマにわかれて議論します。

この機会は、今年で12年目を迎えるHeKKSaGOn[ヘキサゴン:日独6大学アライアンス]の枠組みにおいて醸成してきた日独大学間の良好な関係性から展開する新たな取り組みでもあります。

どうぞ皆さまも、関心のあるトピックを選んで議論にご参加下さい。国際的かつ分野と世代を超えた議論を通して、将来に向けた新たな繋がりが見つかるかもしれません。

JST	CET	Speakers	Keywords
開会			
17:30	09:30	開会の挨拶	
パラレルダイアログ			
17:40	09:40	Dialogue —— 1 <b>消化器癌に対する バイオマーカーを用いた 個別化外科治療</b>	<b>Biomarker</b> <b>Precision Medicine</b> <b>Molecular Profile</b> <b>Postoperative Surveillance</b>
		岡村亮輔 [京都大学医学部附属病院/助教/第1期フェロー] 腫瘍外科/消化器癌/癌個別化治療	
		Dialogue —— 2 <b>2050年の水文学研究</b>	<b>Flood Risk Assessment</b> <b>Climate Change</b> <b>Statistics</b> <b>Numerical Calculation</b> <b>Urban Planning</b> <b>Economics</b> <b>Insurance</b> <b>Earth Science</b>
		田中智大 [京都大学大学院地球環境学堂/助教/第1期フェロー] 土木工学/水文学	
		Dialogue —— 3 <b>2030年の医療科学における 疫学・統計学の役割</b>	<b>Machine Learning</b> <b>Health Services Research</b> <b>Endocrinology</b> <b>Epidemiology</b> <b>Causal Inference</b> <b>Cardiovascular Epidemiology</b>
		井上浩輔 [京都大学大学院医学研究科/助教/第2期フェロー] 疫学/因果推論/内分泌代謝学	
		Dialogue —— 4 <b>植物-微生物相互作用に関する知見を どのように世界レベルでの 政策対話に統合できるか/すべきか</b>	<b>Applied Microbiology</b> <b>Molecular Cell Biology</b> <b>Plant-Microbe Interaction</b> <b>Methylophs</b> <b>C1 Bioeconomy</b>
		白石晃将 [京都大学大学院農学研究科/助教/第2期フェロー] 応用微生物学/分子細胞生物学	
		Dialogue —— 5 <b>人類はどうなるのか/ どうなりえるのか/どうあるべきか</b>	<b>Psychiatry</b> <b>Eating Disorder</b> <b>Behavioral Addiction</b> <b>MRI</b> <b>Neuromodulation</b>
		磯部昌憲 [京都大学医学部附属病院/助教/第1期フェロー] 精神医学	
		Dialogue —— 6 <b>高齢社会における ITリテラシー格差を 医療技術はどう克服すべきか?</b>	<b>Medical Engineering</b> <b>Biosignal Processing</b> <b>Wearable Computing</b> <b>Medical Informatics</b> <b>Human-Computer Interfaces and Interactions</b>
		江口佳那 [京都大学大学院医学研究科/特定助教/第3期フェロー] ヒューマンコンピュータインタラクション/ 医工学/医療情報学	
		Dialogue —— 7 <b>腫瘍イメージングにおける マクロスケールとミクロスケールの 橋渡し</b>	<b>Radiology</b> <b>Cancer</b> <b>Breast Cancer</b> <b>MRI</b> <b>Diffusion MRI</b>
		飯間麻美 [京都大学医学部附属病院/助教/第3期フェロー] 放射線診断学	
全体討論			
18:55	10:55	各グループでのまとめ (5分×7グループ)	
19:25	11:25	ゲストからのコメント	
19:40	11:40	閉会	

**主催** ハイデルベルグ大学/カールスルーエ工科大学/ゲッチンゲン大学/京都大学  
**協力** 京都大学 欧州拠点  
**お問い合わせ** 京都大学 次世代研究創成ユニット  
 <admin-l-inisght@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp>